コース周辺の見どころ

●1 江戸方見附跡…江戸方見附は、各宿場の江戸側の出入口に設置されていたものです。土盛をした土塁の上に竹木で矢来を組んだ構造をしていて、宿場の範囲を視覚的に示していました。

●2 橘樹神社…文治２（1186）年創建と伝えられる。大正 10（1921）年に橘樹神社と改称。第二次世界大戦後、隣接していた神明社を境内社としました。

●3 旧古町橋跡…江戸時代初期の東海道は、この場所に帷子川を渡る「古町橋」がありました。帷子川の河川改修により、昭和 41 年に約 120m 北に架設されています。

●4 ステンレス鋼発祥の地…昭和７年に創立された日本金属工業株式会社によって、日本で初めてステンレス鋼の製造に成功したことを記念する碑があります。

●5 神明社…創建は平安時代中期(970年)。当地は伊勢神宮の御領地として寄進され榛谷御厨と呼ばれ、その鎮守として神明社が建立されました。祭神は天照大御神。

●6・7 耕地整理竣工記念碑…帷子川流域一帯では耕地整理事業が明治36年から順次始まり、大正7年(●6)と昭和16年(●7)に記念碑が建てられました。

●8 旧中橋跡…慶安元年(1648年)の東海道のルート変更に伴い今井川も川筋が変えられ、この付近に「中橋」が架けられました。江戸時代の終わりに現在の今井川に流れが変えられ、橋はなくなりました。

●9 助郷会所跡…宿場で賄いきれない人馬を周囲の村から動員する「助郷」という制度があり、その詰所です。

●10 問屋場跡…公用旅行者の荷物の運搬(馬継立)や飛脚の業務を取り扱うところです。

●11 高札場跡…幕府の掟やお触れを貼り出す所で、宿泊代や人馬代も示されていました。

●12 脇本陣(大金子屋)跡…本陣の補助とされた公用の宿泊所です。14室101畳の部屋があり、伊能忠敬測量隊も宿泊しました。

●13 脇本陣(藤屋)跡…本陣の補助とされた公用の宿泊所です。14室110畳の部屋がありました。

●14 脇本陣(水屋)跡…本陣の補助とされた公用の宿泊所です。14室97畳の部屋がありました。

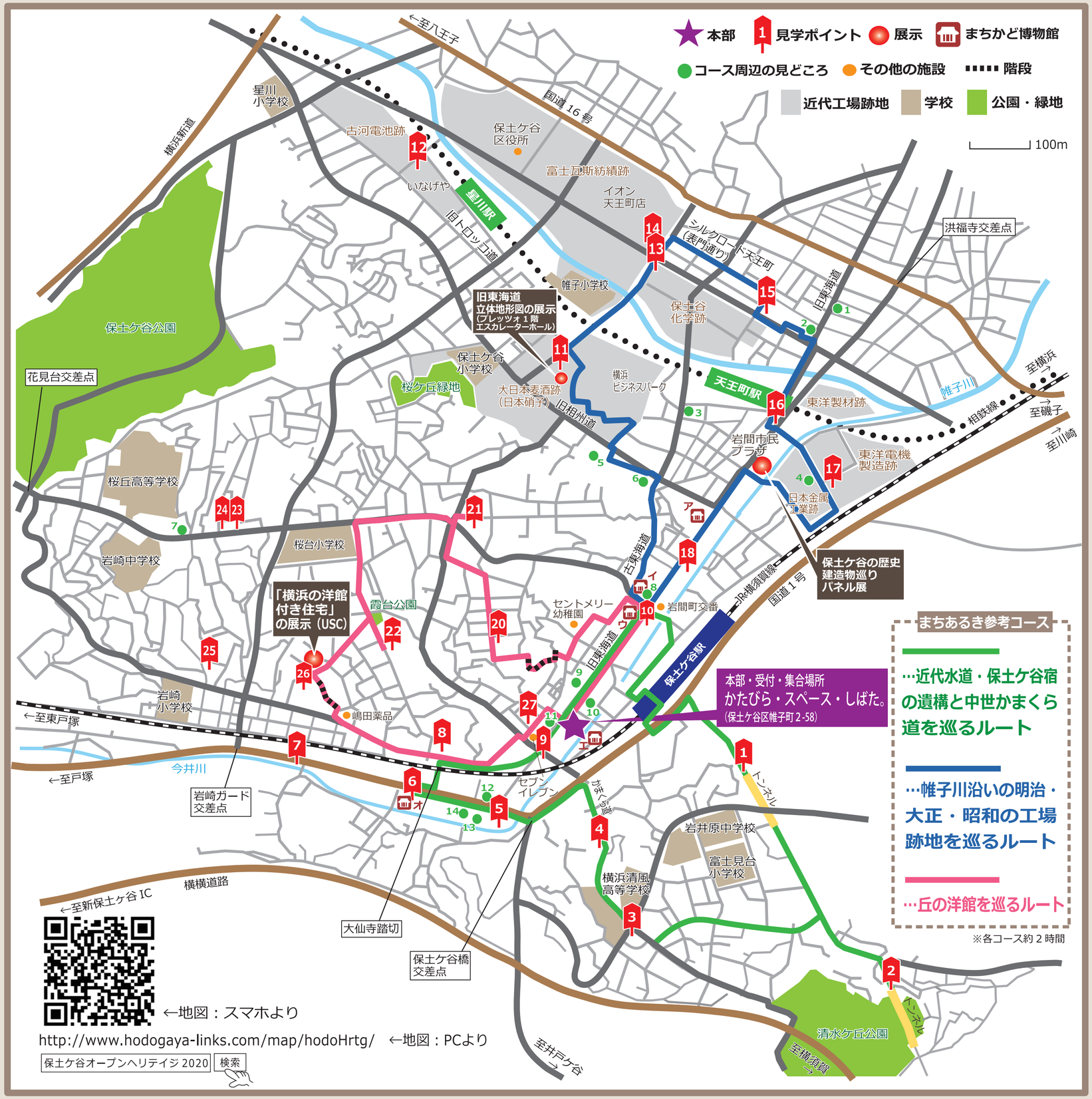
まちかど博物館

ア．ひろた屋　イ．後藤印店　ウ．キク薬局
エ．桑名屋　オ．旅籠（はたご） 本金子屋跡（見学は外観のみ）

各博物館では、保土ケ谷で積み重ねられてきた歴史・生活文化・なりわいのわざを物語るものを展示しています。ひとつひとつの博物館は店先のちょっとした空間などを利用した小さなものですが、保土ケ谷の歴史や人々の営みを感じることができます。

館長さんのお話や、地域の人との出会いも、まちかど博物館めぐりの魅力のひとつです。

【まちかど博物館めぐりの約束】
- まちかど博物館は、各館長の善意により運営されています。マナーを守って見学してください。
- 各博物館の休館日や開館時間は変更される場合もあります。
- トイレはお貸しすることができません。



保土ケ谷区の歴史的建造物公開ウォーキング

保土ケ谷 歴史まちあるき2020

オープンヘリテイジ

2020年2月22日（土）～24日（月）

地図：PCより
http://www.hodogaya-links.com/map/hodoHrtg/
地図：スマホより→

保土ケ谷 オープンヘリテイジ
歴史まちあるき2020

「保土ケ谷歴史まちあるき2020」は歴史的で魅力のある建物や遺構を巡り、地域の歴史・本物の風土、文化を身近に感じることができるイベントです。このイベントは建物所有者の善意によって開催されています。ご迷惑にならないようご見学してください。

歴史的建造物等の外観自由見学

日時　2月22日(土)、23日(日)、24日(月・祝)、9時～16時
内容　まちあるきマップにて自由散策（一部の建物で内部見学可）
※保土ケ谷オープンヘリテイジ教会は、22日(土) 11時～14時、23日(日) 9時～12時限定で行事のため堂の見学はできません。

ほどがやさん写真展

日時　2月22日(土) 9時30分～16時
場所　ひたひら・スペース・しばた。（帷子町2-58）

旧東海道立体地形図の展示（制作：武相国境運動まつり実行委員会）

日時　2月22日(土) 9時30分～16時
場所　横浜ビジネスパーク1階エスカレーターホール

「横浜の洋館付き住宅」の展示

日時　2月22日(土) 9時30分～16時　場所　USC（霞台47-14）

同日開催 保土ケ谷オープンハリウッド教会　演奏会（料金・事前申込）

日時　2月22日(土) 13時～14時
会場　保土ケ谷オープンハリウッド教会　聖堂（霞台8-41）
内容　パイプオルガンとクラシック・ポップ（ピアノ無伴奏演奏）
出演　島根朋史　参加費　500円（全席自由）
主催　横浜市岩間市民プラザ　電話 045-337-0011
※申込方法は、岩間市民プラザにお問い合わせください。（受付時間9時～21時）

「保土ケ谷の歴史的建物巡り」パネル展

期間　2月15日(土)～24日(月・祝)　時間　10時～18時
場所　横浜市岩間市民プラザ　3階キャラリー
横浜市保土ケ谷区岩間町1-7-15
問合せ　横浜市岩間市民プラザ　電話 045-337-0011
協力　保土ケ谷区所　※入場無料

ウォーキングで健康づくり！
歩くことを引いて 地域を歩く
動いた後は うつむき歩く
ひざにしっかり のばす
歩幅は大きく リズミカルに
物知はかかしから

正しい姿勢で歩けば効果が up！

★ウォーキングを続けて 効果を実感！

保土ケ谷の近代水道

■保土ケ谷の近代水道（水道道）

横浜の発展のため明治 16（1883）年にイギリス人土木専門家のヘンリー・バーマーに設計を依頼し、新式の「創設水道」の工事に着手した。津久井の三井に水源を求め、西谷を経由し帷子川沿いの現在の水道道（西谷－星川－天王町－藤棚－西戸部）を通り 43 キロの道を延々と横浜まで引いてくるものだった。明治 20（1887）年に全工事が完成し、我が国初の衛生的な近代水道の歴史が始まった。

■もう一つの保土ケ谷水道道

大正 12（1923）年の関東大震災の復興事業の一環として横浜市は、磯子・蒔田・大岡方面に配水強化を図るための新設水道の敷設に着手、大正 15（1926）年～昭和 6（1931）年にかけて完成させた。西谷～和田町で既設の水道と分岐し神戸町～保土ケ谷駅の北側を渡り、東隧道、大原隧道を通って南区の南太田に抜ける水道道である。

1 東隧道

昭和 5（1930）年
馬蹄型トンネル

市認定歴史的建造物
［平成 12(2000）年 11 月］

関東大震災復興の際、磯子、岡村、蒔田、大岡方面の配水強化を図るために、保土ケ谷町と南太田町を連絡する道路用トンネルと兼用で計画・整備された。外観表面は、梁とトスカナ式の柱部に花崗岩、その他はフランス積レンガを張ることにより、梁、柱の構造的なデザインを明確にした優れた意匠となっている。

2 大原隧道

昭和 3（1928）年
馬蹄型トンネル

市認定歴史的建造物
［平成 12(2000）年 11 月］

関東大震災復興の際、東隧道とあわせて整備・計画された。当初は管理用だったが、現在は歩行者用通路としても利用されている。

3 北向地蔵

享保 2(1717) 年

市登録地域有形民俗文化財
［平成元 (1989）年 12 月］

修繕の時などに地蔵の向きを変えても、いつの間にか北向きに戻っているので「北向地蔵」と呼ばれるようになったそうである。ここは「かなさわかなまくら道」の分岐点であり、地蔵の角柱には「是より左の方かなさわ道」「是より右の方くめう寺道」と刻まれ、金沢方面と弘明寺方面への道案内も兼ねていた。

4 御所台の井戸

不詳

市登録地域史跡名勝天然記念物
［平成 3 (1991）年 11 月］

「かなさわかまくら道」その途中の急な坂道（いわな坂）沿いのひっそりとした一角が政子の井戸とも呼ばれる「御所台 (ごしょだい) の井戸」である。政子とは、頼朝の妻で、頼朝の死後に実質的に将軍の仕事を行い「尼将軍」と呼ばれた北条政子のこと。この井戸の水を政子が化粧に使ったという言い伝えがあり、この一帯が政子の所領する土地だったのではないかという説もある。

5 旧保土ケ谷本陣跡（軽部家）（主屋・通用門・蔵）

主屋：大正14（1925）年建築/木造平屋建/洋館付き住宅
門：不明/木造平屋建/冠木門
蔵：大正12（1923）年建築/鉄筋コンクリート造２階建/土蔵風倉庫

旧東海道保土ケ谷宿において大名の宿泊、休憩場所である保土ケ谷本陣を代々運営してきた軽部家の本陣跡に建つ建物。主屋・門・蔵が残る。

6 旅籠（はたご）本金子屋跡(金子家)

江戸末期～明治初期建築
・推定/木造２階建
旅籠(旅館）建築

保土ケ谷宿の旅籠として残る建物。本金子屋は保土ケ谷宿の平旅籠として明治18年まで営業していたが、明治20年の国鉄東海道線の開通に伴い、宿場の機能が徐々に失われてゆき廃業したと伝えられる。

7 復元した一里塚と松並木・上方見附モニュメント

平成17（2005）年復元
一里塚/松並木/
上方見附

平成17年12月、横浜市の事業である第１回「ヨコハマ市民まち普請事業」に選ばれ、平成19年２月、市民の手で一里塚と松並木が復元された。

8 大仙寺（本堂・山門）

元禄14年（1701年）推定
木造平屋建/寺院建築

高野山真言宗の寺院。かつては旧東海道（現在の国道１号）まで参道が通じていたが、明治19年に参道を国鉄が横切る形で開通し現在は踏切が設置されている。

9 金沢横丁道標四基

天明３（1783）年
天和２（1682）年
文化 11（1814）年
弘化２（1845）年

市登録地域有形民俗文化財［平成元 (1989）年 12 月］

この地は、旧東海道と金沢･浦賀往還「かなさわかまくら道」の交差点で金沢への出入口にあたるため通称「金沢横丁」と呼ばれた。金沢・浦賀往還には、弘明寺、円海山、杉田、富岡などの信仰や観光の地が枝道にあるため、道標として四基が建立され現在も残っている。

10 帷子会館

大正期建築/木造平屋建/
近代洋風

当初は消防署の消防車を収納していた建物。現在は町内会館として利用されている。扉や窓は後に改修されたものだが、大正期の建物として旧東海道沿いに残る稀有な洋風建物である。歴史的建造物の良い保存活用例といえる。

帷子川沿いの明治・大正・昭和の工場

保土ケ谷の工業の歴史は、現在の天王町に富士瓦斯紡績（絹糸製糸場）を創業したことに始まる。この地域は帷子川の水運や工業用水が非常に利用しやすく、大規模な区画整理事業によって広く平坦な工場用地が用意され、その後、大日本麦酒（後の日本硝子）、古河電池、程谷曹達、東洋電機製造等の工場が進出し、帷子川に沿って次々と工業地帯化して行った。物流動線として 1917 年（大正６年）相模鉄道（相鉄線）が開業。さらに、工場勤めの人々の住宅需要は周辺の桜が丘、月見台、峰岡町などの住宅地の発展を生んだ。

旧東海道立体地形図の展示
横浜ビジネスパーク プレッツオ１階

神奈川宿～保土ケ谷宿～戸塚宿～藤沢宿の幕末から明治初期の旧東海道の姿を再現した全長約 6mに及ぶ立体地形図の展示。江戸時代、この地域は武蔵の国と相模の国にまたがる地域であり、その国境は「武相国境」と言われていた。この立体地形図は市民団体「武相宿場連携まつり実行委員会」の活動の一環として制作された。

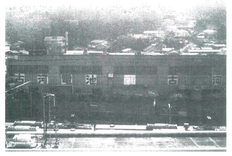
11 大日本麦酒（日本硝子）跡
※案内板はプレッツオ１階にて 22 日のみ設置

明治 40（1907）年～昭和 60（1985）年

元は東京麦酒という会社が明治 28（1895）年に保土ケ谷の神戸（ごうど）に進出し、明治 40（1907）年にビール会社の大手である大日本麦酒に買収され、ビールと清涼飲料水を製造したことに始まる。工場敷地南側から月見台へ続く急坂は、この工場にちなんで「ビール坂」の愛称で呼ばれている。大正５（1916）年に隣地に日本硝子工業保土ケ谷工場が設立され、両者は合併、分離を繰り返すが、戦後は「日本硝子」として専ら瓶の製造に特化する。日本硝子は昭和 60（1985）年に閉鎖、その跡地は、横浜ビジネスパーク、保土ケ谷スポーツセンターなどとして活用されている。

12 古河電池跡

昭和 12（1937）年～
昭和 61（1986）年



古河電気工業（株）が事業拡大にあたり、電池製作部門を関東に進出すべく、保土ケ谷に工場を建てたのが昭和 12 年であった。昭和 25 年に蓄電池部門が分離独立して「古河電池（株）」となる。昭和 61 年にいわき市、今市市に工場移転し、跡地は高層マンション、いなげや、星川中央公園として活用されている。

13 程谷曹達（保土谷化学）

大正５（1916）年～
昭和 48（1973）年

大正５(1916)年、程谷曹達(株)創設。昭和９(1934)年、傍系の東洋曹達と合併し、総合化学メーカーとして昭和 14（1939）年に保土谷化学工業と改称した。昭和 48（1973）年には工場を郡山に移転させた。

14 富士瓦斯紡績跡

明治 36（1903）年～
昭和 20（1945）年

明治 36（1903）年に設立され、1920 年（大正９年）頃に最盛期を迎え、従業員 6,000 名を超える世界最大級の生産量を誇る製糸工場として稼働した。昭和 20（1945）年の空襲で操業停止し、戦後は米軍に接収。自家発電を行い、周辺の工場に余剰電力を供給していた。工場の表門周辺は現在はイオン天王町店の店舗入口となっている。

富士瓦斯紡績で働く女工などの日常の生活必需品をすべて揃えていたのが、表門から延びる現在の天王町商店街（通称「シルクロード天王町」）の起源といわれている。天王町商店街のメインストリートは、現在でも「表門通り」と呼ばれ地域の歴史を偲ばせている。

15 水道道跡

明治 20（1887）年

明治 20（1887）年に敷設された近代水道の遺構、水道道（すいどうみち）と呼ばれる。津久井の水源から西谷－星川－天王町－藤棚－西戸部を通り 43 キロに渡り関内の横浜居留地まで給水され、日本初の近代水道の第一歩を創った。この通りは戦前「保土ケ谷座」などの映画館も多く建ち並び大変賑わいを見せていた。

16 旧帷子橋跡

市登録地域史跡名勝天然
記念物
［平成 10(2008）年 11 月］

広重など保土ケ谷宿を描く多くの浮世絵に描かれている帷子橋。昭和 39 年の帷子川の改修以前に架かっていた帷子橋が現在の天王町駅前公園にモニュメントとして復元されている。

17 東洋電機製造跡、日本金属工業跡

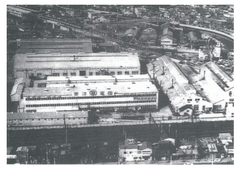
東洋電機製造：大正７（1918）年～不詳
日本金属工業：昭和７（1932）年～不詳

東洋電機製造

大正７（1918）年設立。当時、機械類はほとんど英・独・米からの輸入品で、第一次世界大戦後は輸入物資がままならず、鉄道車両用電気機器の国産化の使命を帯びて設立され、電車のモーターを国産化した企業である。製品の車両を移動させる引込線が保土ケ谷駅に直結して今も残されている。

日本金属工業

昭和７（1932）年、ステンレス鋼の製造を目的として設立。日本初のステンレスの製造を手がけた。工場跡地の高層住宅団地の入口の植え込みに「ステンレス鋼発祥の地」の記念碑がある。



↑東洋電機製造

18 櫛崎邸（元米穀商大岡米店）

昭和６（1931）年建築
木造２階建/町屋

町屋（商家）としては、旧東海道保土ケ谷宿沿道に唯一残る建物。米屋として昭和 15 年頃まで営業していた。伝統的商家造りである。前面道路は櫛崎邸側は江戸時代の旧東海道の時代の道路境界線がほぼ現在も変わっていないことが知られており、旧宿場通りの歴史的景観を偲ばせる歴史的建物として貴重である。

洋館付き住宅とは

1920 年代（大正から昭和初期）、和風住宅の玄関脇に小さな洋館（洋間）がついた建物が「洋館付き住宅」である。大正から昭和にかけて和洋折衷のライフスタイルが普及し、一般の住宅にも西洋館の影響を受けた建物が全国各地に多く建てられるようになった。洋館付き住宅の魅力は、屋根の形、外壁の仕上、窓の意匠などそれぞれの建物が個性的な工夫を凝らし、モダンな洋間と簡素な和室が一体となって、住まいとしての魅力をつくりだしている点である。

20 杉浦邸

昭和４（1929）～５（1930）年頃建築
木造平屋建 / 洋館付き住宅

平屋建、中廊下式間取で、外観は全洋館様式。かつてのドイツ下見板張の外壁と玄関横の応接室窓の鎧戸はクリーム色に塗装されていた。当初の屋根は赤い人造スレート葺（近年改修済）であった。モダンな洋風意匠の建物で、樹木に囲まれた昭和初期の月見台の住宅地景観を偲ばせる住宅である。

21 井澤邸

昭和11（1936）年建築/木造２階建
洋館付き住宅

昭和60年までは内科・小児科の町医者「井澤医院」として営業。洋館部分を待合室として使用しており、地域に親しまれてきた建物。洋館を囲んで後年に増築２階建てとなり、最も目立つ敷地角にランドマークとして洋館部分を見せている。

22 保土ケ谷カトリック教会

昭和14（1939）年建築
木造平屋建/教会建築

パリ外国宣教会フランス人のシェレル神父が私財を投じフランスからステンドグラスなどを取り寄せて建てた教会であると伝えられている。様式はロマネスク風であり、外壁をモルタル塗りで仕上げた質素な意匠で、細かいところまで手の込んだ美しい建物である。チェコ出身の建築家J.J.スワガーによる設計と言われている。

23 入澤邸

昭和９（1934）年建築
木造２階建/洋館付き住宅

洋館は切妻を正面に見せず横向きとした配置が珍しい。洋館の屋根は施釉フランス瓦葺き。広縁の天井には戦時中の焼夷弾の跡が残る。

24 小菅邸

昭和６（1931）年建築
木造平屋建/洋館付き住宅

昭和９年子どもの就学を機に、南区の六ッ川より現地に移築した珍しい経歴を持つ建物。近年外部を改修した。屋根は切妻と入母屋の複合型。

25 齋藤邸

昭和９（1934）年建築
木造２階建/洋館付き住宅

上げ下げ窓の出窓、窓の桟組がレトロで結霜硝子とダイヤ硝子でパターン化されている点が見どころ。洋間は６帖で天井壁共に漆喰仕上げ。築80年経つが狂いもほとんど無く、大工や左官職人が腕を振るった傑作建築である。

「横浜の洋館付き住宅」の展示
USC

横浜に建つ洋館付き住宅約 100 棟を今は失われた建物も含め写真で紹介する。また、洋館付き住宅が生まれた歴史などの解説と、実際に使われている瓦や天然スレートなどの屋根材、建築に使われた職人の道具なども展示。

26 三輪邸

昭和６（1931）年建築
木造２階建/洋館付き住宅

外壁は全て下見板張りの和風造りだが、玄関の奥に洋間の応接室、その左手に広い洋間があり、和館部分は２間続きの座敷を配し、秀逸な書院造で創建時の形をよく留めている。

27 中島邸（旧喜久の家旅館）

大正13（1924）年建築/
木造平屋建/
洋館付き住宅

昭和28年頃増改築して平成17年頃まで旅館業を営んでいた。洋間は３帖、元は玄関踏込より直接入り、洋間の続き部屋とは段差が付いた土間を設えたユニークな洋館であった。